
“ タイプ ”

美空遊衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

“タイプ”

【Nコード】

N5327Z

【作者名】

美空遊衣

【あらすじ】

元男子校に入学した高校生の青春学園Life

主な登場人物

あまくさがくえん
私立天草学園

高等部2年B組

・三条 澪 さじょう れい

主人公。

大人しい、とゆーか面倒なことはしない。
将来の夢は声優。

・神田 晶 かんだ あまひ

後に亜衣美の彼氏になる。
学園長の息子。

・椿 潤 つばき じゅん

後に澪の彼氏になる。

・杉下 亜衣美 すぎした あいみ

澪の親友。
明るくてキラキラした可愛い子。

将来は保育関係に就きたいらしい。

・城戸 春樹 きと はるき

兔に角うるさい。

亜衣美に片思い。

・小川 大輝 おがわ たいき

・
田たくち
口

爽そう

入学式

「いつてきまーす」

ガチャ、パタン

はあ…

“行って来ます”なんて言っても誰も居ないし、居ても家政婦さん、一々言う意味あんのかな？

私、三条溲。

今日、元男子校だった
天草学園高等部へ入学する
ピカピカの1年生。

まあ、いつも通り
適当に過ごすことになると思うから
普通の子なら必ず抱く
期待と不安なんてものは
一切無い。

高校生活もまた…

「ねえ！」

「え？」

誰かが私に話しかけてきた。

「あなたもB組!!?」

「え、うん、そーだよ。」

「そっかあ！よかつたあ！！女の子いてっ」

「あ、うん……」

話しかけてきたのは

とてもとても可愛い女の子だった。

どうやら同じクラスらしい。

「あたし、杉下亜衣美。宜しくね！」

「あ、うん宜しく！」

「じゃあ教室入ろー!!」

ガラ

「「うおっ!!じよ、女子だあ————!!!!!!」」

バン

亜衣美は思い切りドアを閉めた。

「んねっ、今の、何?(汗)」

「さ、さあ〜?」

「ごめんねえ、ここ男子校だったから女子って珍しいもので……。
ついついはしゃいじゃったただけだから。気にしないで」

私たちに2人の内1人男の子が話しかけてきた。

「君たちもB組？」

「あ、はい。」

と、亜衣美。

「そっかあ！俺達もB組なんだ。これから宜しく(ニコ)」
と、メガネを掛けた黒髪の男の子が言った。

ドキッ。

・・・んっ？

なんだ？今のドキッ。は(笑)

「席、席！私の席はどこだあ？」

私達は教室に入り、黒板に貼ってある自席表を見た。

「あっ！あたしの席あったあ！！」

と、亜衣美。

「杉下さんの席、どこ？」

と、私。

「んー？ここお、窓側から2列目の一番後ろっ！！えっとお・・・」

「あ、私、三条澗。私の席はあ・・・」

私は自分の席を探した。

「あっ！ここじゃないっ？あたしの隣りっ！！」

「え？あ、ほんとだあ」

「漣が隣りでよかったー！」

「えっ？」

「あ、これからは名前で呼び捨てでいいーよね…？」

「あ、うん！全然いいよ」

「よかったあ！！じゃーあたしのことも亜衣美でいいーからねっ！」

「うんっ！」

それから担任の先生が来て、全員着席して私は暇だったから、教室を見回してみたらB組の女子は私と亜衣美、2人だけだった。

親睦お泊り会

く5月く

「そろそろ親睦お泊り会がある。

バスの席、ホテルの部屋決め

この時間に済ませとけえ！！

バス席の表とホテルの部屋詳細は、ここ教卓に置いとくからなあ。

因みに女子のホテル部屋は201号室で決まってるからなあ」

ザワザワ

「どーするう？晶」

と、城戸くん。

「はあ？決まってるだろ、俺と潤で

城戸と小川。まあ後はもろもろだな。」

「そーだったな！じゃー俺等は、202号室！ーいーよねー？小川」

「俺はどこでもー！」

「じゃーけって…」

「だーめだっ！ー俺と潤が202だよ。」

「えー！ーじゃーいーよーだあ、俺ら203行くからあ。」

「よしつ。潤！俺ら202だかんなっ！」

「おっ。」

その頃女子2人は・・・

「ねえねえ濡るバスの席どーするっ？」

「えー私は窓側ならどこでも。」

「うーんじゃーやっぱりいー…一番後ろっ！ーでいーい？」

「うんいー…」

「駄目だっ！ー！」

えっ？

いきなり神田晶が話に入ってきた。

「なによお。」

亜衣美はムスツとした顔で
神田に言った。

「一番後ろは俺と潤と、城戸、小川、田口で使うから
お前らは使えねーんだよっ！」
と、神田。

「はあ？あなた達に何の権限があつてそんな事言つてるのよお。
普通じゃんけんで勝負とかじゃないの？」

「うっせー。いーから一番後ろは俺たちの席で、決まりなんだよ！」
「！」

「うるさいのはそつちよっ！！正々堂々じゃんけんしなさいよ！！
あゝそれとも何？負けるのが怖いんだあ？（ニヤニヤ）」

「ちげーよ！！！」

「じゃーじゃんけんしよーよ」

「いーだろー。じゃんけんしよーぜ？」

「「じゃんけん、ぼんっ」「」

亜衣美：パー

神田：チヨキ

「うっしやあー！！ほらみるお！！じゃんけんなんかしなくても
結果一番後ろは俺らのなんだよっ！！！」

「うあゝぐめんねえ溲ちやゝん（泣）」

「うっん、私はどこでもいーからあ」

こうして私達は後ろから2番目の席になり
接戦だったバスの席決めは終わった。

「親睦お泊り会」

「やっ！ やつと待ちに待った親睦会だね！！」
と、朝からハイテンションな亜衣美。

「ソーだねえっ」

今はバスの中。

隣りには亜衣美が居る。

後ろには、私の後ろ右から順に、

椿くん、神田くん、うるさい城戸くん、小川くん、田口くん。

まあ、みんな元気にそれなりにはしゃいでる。

それから宿舎に着いて

みんな荷物を自分の部屋に置いて

キャンプ場みたいなところに集まった。

「これから各クラス7人の班に分かれて、今日の昼食である
カレーを作ってもらおう！！道具なりなんなりは、各班のテーブルに
置いてあるから
それを使うようにっ。じゃー解散！！」

ザワザワ

「どーする？晶。7人だつてよ？」
と、椿。

「あ？あーどーするか…。」

「じゃー俺が適当に連れてくるけど？」

「おー、宜しく潤。」

「どーするう！！？漣！！」

亜衣美がめっちゃ困ってます！って顔で聞いてきた。

「うん…どーしょっか」

「おーいつ！！」

「ん？」

私達は呼ばれた方に振り返った。

椿くんだ…。

椿が手を挙げながらこっちに来た。

「椿っ！！」

と、亜衣美。

「なあなあ、漣達班決まっちゃった？」

「いや、居なくて困ってた所！」

「そっか！じゃー一緒に作らない？」

「いーよお！！漣もいい？」

「あ、うんいーよ。」

「じゃーこっちだから来て！！」

「あきらー！！連れてきたぞー！」

「かんだー！！やつほー！」

と、手を振りながら亜衣美が言った。

「んあゝっ！！？おい潤！！」

誰がこいつら呼んで来いなんて言ったんだよ！！

三条ならまだしも杉下とか…（泣）

「なによお、私が来ちゃいけない理由でもある訳〜？」

「あーもーそりゃー沢山…！」

「あー？なんなのよお！！（怒）」

「まあまあ！！落ち着いて落ち着いて」

と、小川が2人の中に割って入った。

「そーだよ、楽しくやるーよ晶！せっかく同じクラスなんだしさ」と、椿。

「ちっ、分かったよ。」

それから

火、鍋の当番：神田、杉下、城戸
具材を切る、洗物当番：椿、三条、小川、田口
に分かれた。

「あつつ!!」

火の粉が亜衣美の指に当たったのか
亜衣美は火傷した。

「どーした？」

と、神田。

「ちょっと火傷したみたい。」

「見せてみ？」

「あ、大丈夫だから！早く作っちゃおう？」

「いーから見せろよっ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5327z/>

“タイプ”

2011年12月18日01時46分発行